



パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.140 2025年11月20日発行
全国牛乳パックの
再利用を考える連絡会

TEL. 0554-22-3611

第3回「東大和笑顔寄席」レポート

去る11月9日、東大和市ハミングホールにて林家力レー子さん主催の笑顔寄席が開催されご招待いただきました。会場は700席の大ホールで満員御礼、熱気に満ちあふれていました。

今回も牛乳パック5枚でトイレットペーパー1個、10枚でティッシュペーパー1個と交換企画が実施され、トイレットペーパー10ケースを「牛乳パック再利用マーク普及促進協議会」からご提供いたしました。

毎回7ケースのトイレットペーパーの提供をしていましたが、事前にカレー子さんから「皆さん一生懸命に牛乳パックを集めて下さっているようで、当日1000枚持ってくるという方もいらっしゃるの!!なので、トイレットペーパーの提供数を少し増やしていただけないでしょうか」という相談を受けました。

オリジナルトイレットペーパーはコアレックス信栄(株)に取り置きをしていただいており、またレッテル巻きは福祉事業所のメンバーさんの仕事として信栄さんから福祉事業所に委託されていて、タイトな日程ではありましたが対応していただきました。

会場へ到着すると、すでにチケットのもぎりで長い列ができていて、その脇に沢山の牛乳パックが置かれていました。「ちょっと写真をとらせていただけますか?」とお願いすると「武藏浦和から車で1時間半かけてきました!車に乗らないので2000枚には届かなかったのですが、1900枚くらいはあります!!いつもカレー子さんが話されている牛乳パックの方ですね?」と熱い言葉をかけていただきました。

カレー子さんが言っていたのはこの方なのか!?と実際にお目にかかれたのは幸いで「たくさんの牛乳パックをありがとうございます」と感謝を伝えることができました。



笑顔寄席は防災と環境をテーマにしていて、オープニングには東大和市の和地仁美市長さんがごあいさつ。

林家木久扇師匠の落語で大爆笑もあり、オペラ・ピアノ演奏などもありましたが、東京都消防庁からのリチウムイオン電池の取り扱い方レクチャー、カレー子さんがずっと続けている東日本大震災支援として、気仙沼市から駆け付けた千葉清英さんのお話もありました。

千葉さんは震災で9人家族中7人をなくされ、息子さん一人が小学校での避難で助かり、ご自身も津波に流され九死に一生を得たという想像を超える体験をされています。もともとは牛乳販売店を営んでいましたが、みなで悲しみを乗り越え地域を盛り上げようと、「のりコエタロウ」というふりかけを商品化しています。会場から「買います！！」と声が上がりましたが、ふるさと納税や東北物産館でも取り扱っていますので、お試しになってみてください。

笑顔寄席のトリは、林家カレー子・まる子母娘漫才。

市長さんへ向けたご挨拶のお礼がてら、まるちゃんの「市長さんは音大を出てらっしゃるんですよね？今度歌っていただこうかしら？あっ！大丈夫ですよ、ちゃんと卒業証書はありますから。」に会場も大爆笑。

笑わせながらもしっかり漫才の中で、パック連の紹介や牛乳パックリサイクルの協力を呼び掛けてください、終演後、お客様たちから「牛乳パックリサイクルしますね！」と声をかけていただきました。



この日集まった牛乳パックは、山田洋治商店さんが回収して下さい量は300kg (約9000枚) だったそうです。

今年5月のひまわり・環境寄席では200kgでしたので、カレー子さんが懸命に呼びかけて下ったおかげで回収量も増えました。

来年の第5回ひまわり・環境寄席は5月1日(金) 13:00~ 場所は小金井宮地楽器ホールでの開催だそうです。

問い合わせ先 RK企画 070-6552-4665